

2024年2月19日

令和5年度
第4次田辺市地域福祉計画策定・推進委員会

地域福祉の推進と コミュニティの活性化

武庫川女子大学 文学部

心理・社会福祉学科

まつのはな

松端 克文

地域共生社会とは

人口減少

出生数約77万人
出生率1.26

児童虐待 約21.9万人

いじめ

約68.2万人

少子高齢化

経済的困窮

社会的孤立

地方衰退

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、
地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が
世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を指しています。



❖「疑似包摂化」と「個人帰属化」とのシンクロ

❖「自助」と「自己責任」論の内面化と「連帯」の喪失

経済的困窮×社会的孤立への支援

複合多問題

・制度の狭間の問題 = **経済的困窮** × **社会的孤立** の問題に集約できる

孤独・孤立 生づらさ

≡ 社会のなかに自分の「居場所」がない状態

経済的困窮・貧困

≡ 3つの「溜め」がない状態
「金銭の溜め」・「人間関係の溜め」・「精神的な溜め」ない状態

お金・資産 ソーシャルキャピタル 心のゆとりと自信

(湯浅誠(2008)『反貧困』)

社会的排除 ≡ 経済的困窮(貧しさ) × 社会的孤立(寂しさ)

居場所づくり

「自己責任」
ではなく
社会の問題

「再分配」の正義
(社会保障制度)

「承認」の正義
(コミュニティづくり)

(古市慶寿(2010)『希望難民ご一行様～ピースボートと「承認の共同体」幻想～』)

(資料:松端)

“学ぶ”ということの大切さ・おもしろさ

❖ 「学校化」している社会(日本の社会の特徴)

- ・「学校」的な画一的尺度で人を評価し、萎縮させる社会
できる／できない コミュ力高い／コミュ障 陽キャ／陰キャ…
- ・管理的で抑圧的、集团的で没個性的、不安をあおり従順に～



“学ぶ”ことで…

- ❖ そんな社会の矛盾に気づく
- ❖ 生きやすくなるように
自分を成長させる
- ❖ 暮らしやすい社会に
変えていくために知恵を絞る
- ❖ できることから実践する

不登校29万人、いじめ68万件、ともに最多

- ・学校現場の様々な課題を把握するため、文部科学省が実施する「児童生徒の問題行動・不登校調査」の2022年度の結果が判明した。
- ・不登校の小中学生は過去最多の約29万9000人。
前年度比22.1%の大幅増となった。
うち学校内外の専門機関に相談していない児童生徒も過去最多の約11万4000人。
- ・いじめは小中高などで約68万2000件が認知され、被害が深刻な「重大事態」は923件。いずれも過去最多だった。
(『朝日新聞』2023年10月3日)

ソーシャルワークとソーシャルポリシー

(古川孝順2012「変革期社会福祉学の展望」
一般社団法人日本社会福祉学会編
『対論社会福祉学1 社会福祉原理・歴史』中央法規出版)

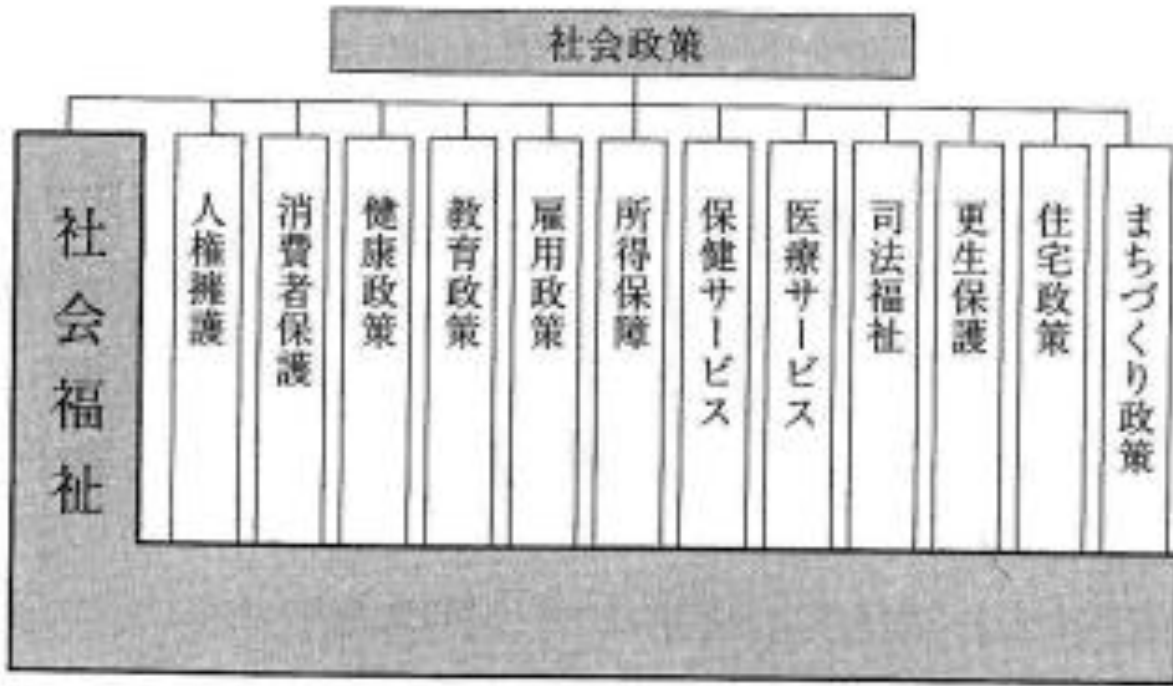


図1 社会福祉のL字型構造 (概念図) 古川孝順作成

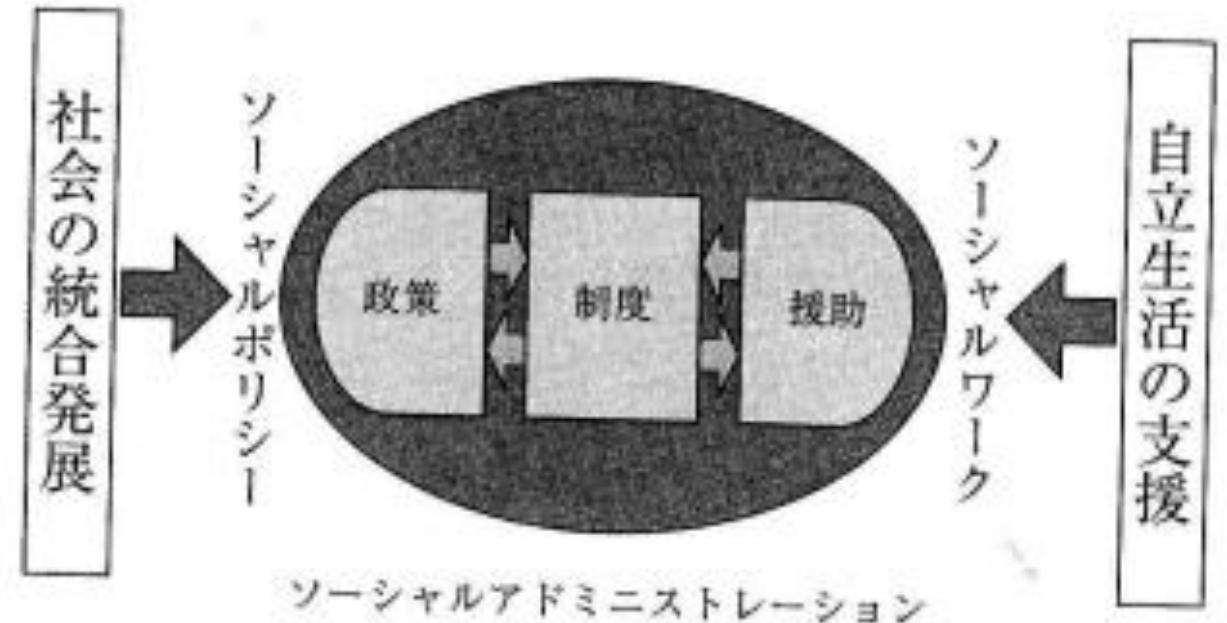


図2 社会福祉の2定点型構造 (概念図) 古川孝順作成

日本の「社会福祉」は、欧米のsocial work
とsocial policy を掛け合わせた概念

❖「ソーシャルワークのグローバル定義」❖

ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である。社会正義、人権、集団的責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす。

ソーシャルワークの理論、社会科学、人文学、および地域・民族固有の知を基盤として、ソーシャルワークは、生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、人々やさまざまな構造に働きかける。

この定義は、各国および世界の各地域で展開してもよい。

注釈:注釈は、定義に用いられる中核概念を説明し、ソーシャルワーク専門職の中核となる任務・原則・知・実践について詳述するものである。

❖ソーシャルワーク専門職のグローバル定義は、2014年7月にメルボルンでの国際ソーシャルワーカー連盟総会および国際ソーシャルワーク学校連盟総会において採択された。

で、ソーシャルワークについて考えてみるよ…

❖ ソーシャルワークの中核的概念 ❖

ソーシャルワーク専門職の中核となる任務には、社会変革・社会開発・社会的結束の促進、および人々のエンパワメントと解放がある。

ソーシャルワークは、相互に結び付いた歴史的・社会経済的・文化的・空間的・政治的・個人的要素が人々のウェルビーイングと発展にとってチャンスにも障壁にもなることを認識している、実践に基づいた専門職であり学問である。

構造的障壁は、不平等・差別・搾取・抑圧の永続につながる。人種・階級・言語・宗教・ジェンダー・障害・文化・性的指向などに基づく抑圧や、特権の構造的原因の探求を通して批判的意識を養うこと、そして構造的・個人的障壁の問題に取り組む行動戦略を立てることは、人々のエンパワメントと解放をめざす実践の中核をなす。

不利な立場にある人々と連帯しつつ、この専門職は、貧困を軽減し、脆弱で抑圧された人々を解放し、社会的包摂と社会的結束を促進すべく努力する。

❖ パターナリズム

ある関係において立場上、上位にいる者が、「よかれ」と思って、下の立場のものにある考え方や行動を強いること

「No! (イヤ)と言えない!」

父親と子ども、医者と患者… いわゆる「医療モデル」的な関係

やらされ感

いやいや
しぶしぶ



2023/7/4 自主的な学習会の様子

❖ 解放

自己を解放し、呪縛から解放される

エンパワメント
“楽” 習体験 わくわく
いきいき

リベラルでカジュアルな関係の構築

協調性

協力して助け合う

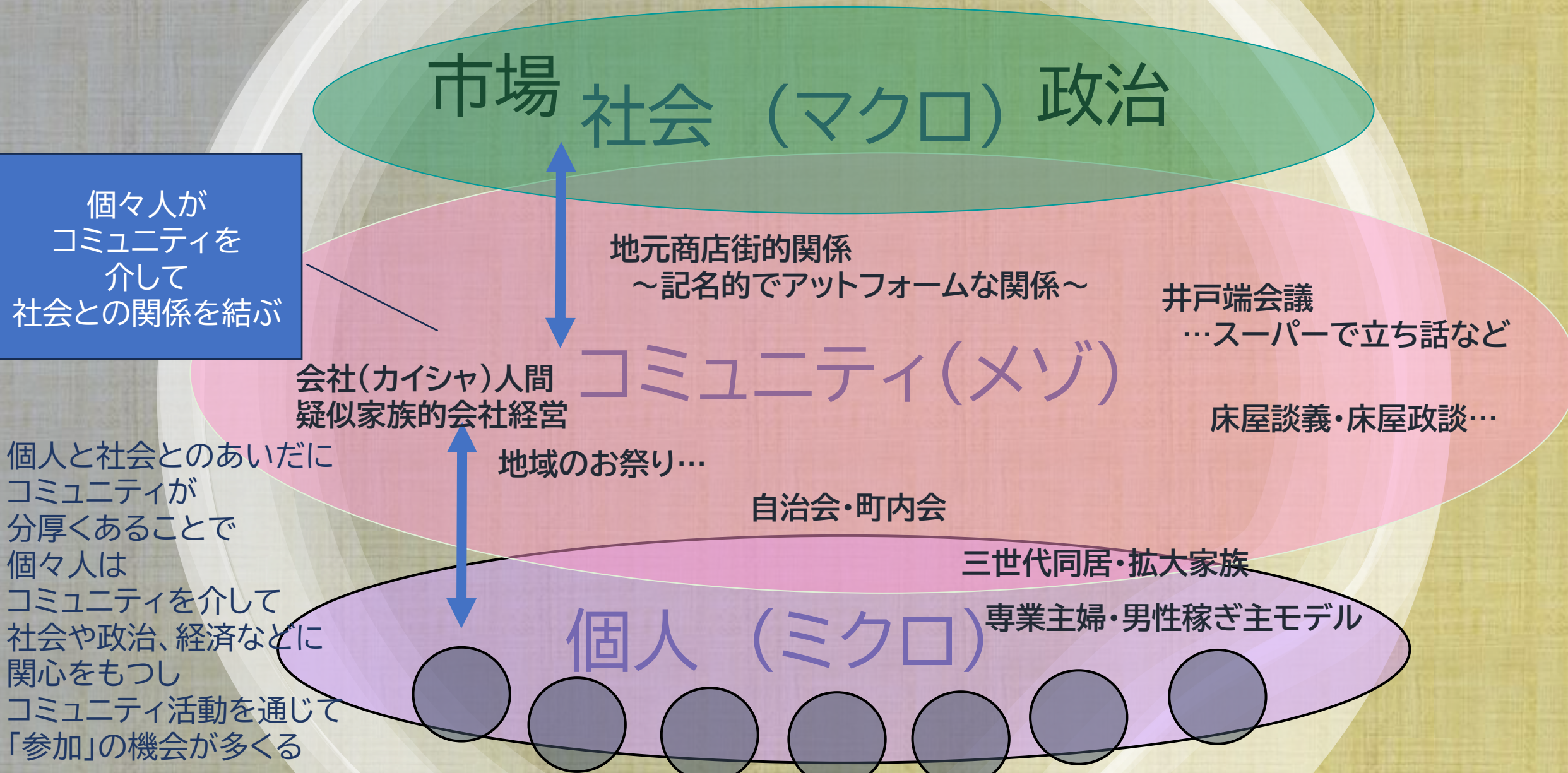
主体性

自ら考え、自ら進んで行動する

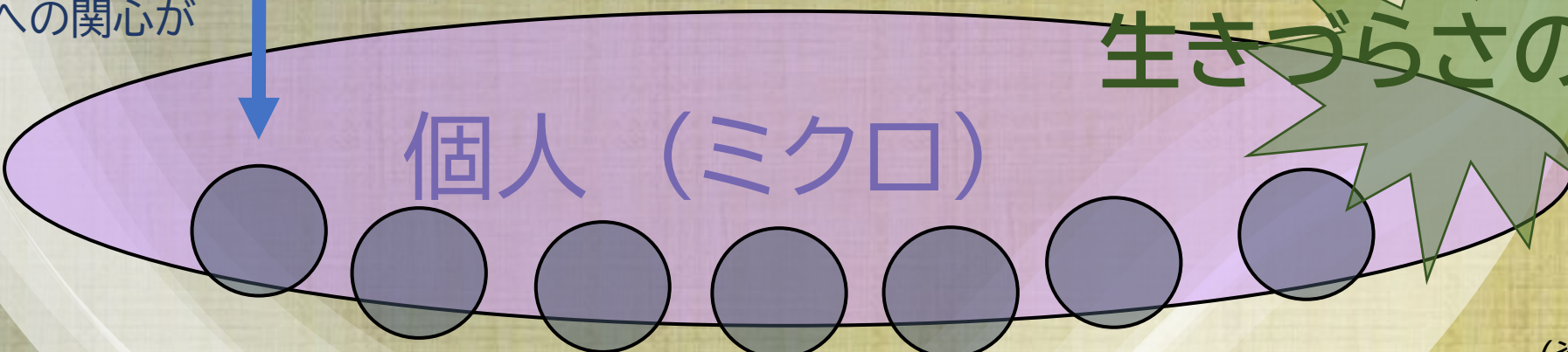
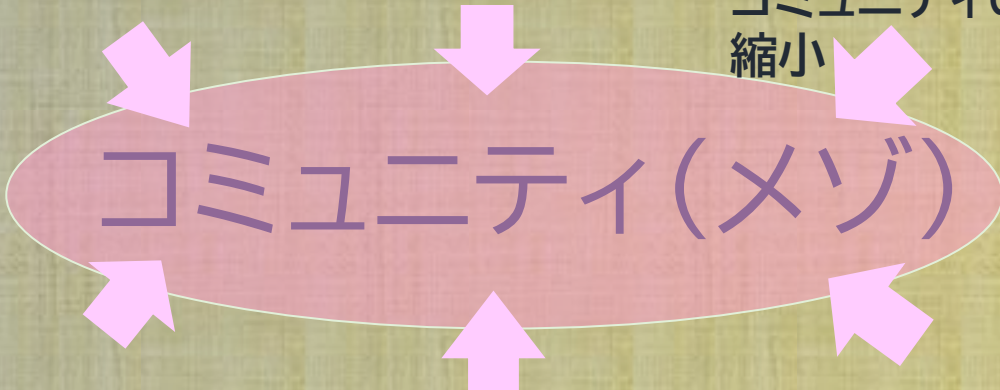
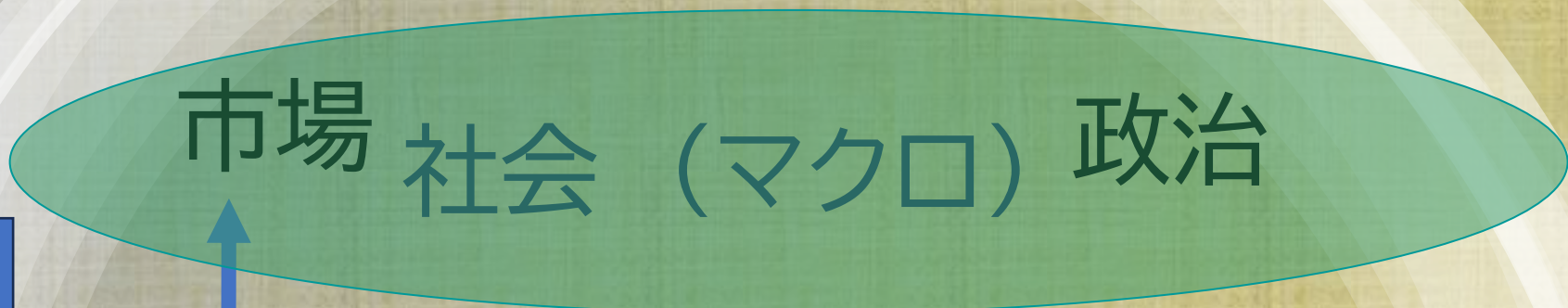


2023/5/17 自主的な学習会の様子

かつての社会と個人との関係



いまの社会と個人との関係・・・



個々人が直接
社会や政治、
市場と
関係をつぶ
ようになる

すると・・・
利己的になり、
私的な利害に集中

社会や政治への関心が
薄れる

コミュニティの
縮小

孤立化の進展

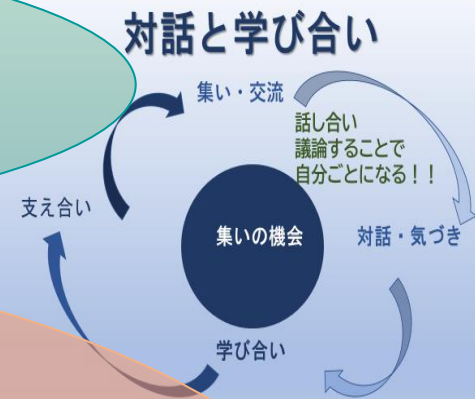
生きづらさの蔓延

これからの 社会と個人との関係

地位・権力・所有(to have 「もつこと」)への執着と社会的評価軸

公共心の涵養
利他的な行動の喚起
互酬性の規範の重視

市場 政治
社会 (マクロ)



押し活??

居場所(づくり)活動

趣味のサークル

コミュニティの
拡大

NPO活動
ボランティア活動

コミュニティ(メゾ)

存在の肯定(to be 「あること」の価値)

協議の場 (プラットフォーム)

メゾレベルの活性化

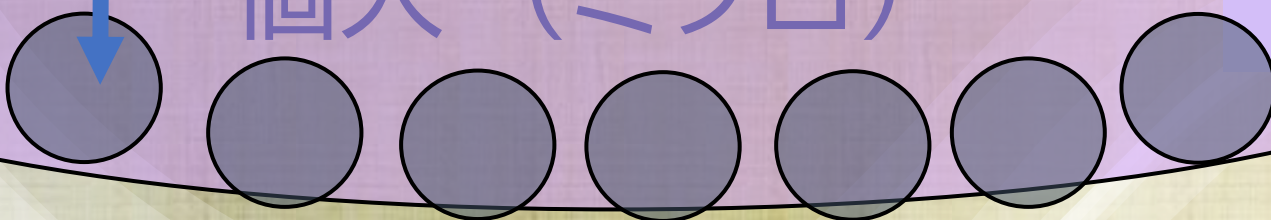
人が集い
交流し
話し合い
議論

個々人がコミュニ
ティを介して
社会や政治、
市場と
関係を結ぶ
ようになる

地区社協・
地区福祉委員会活動

することで
自分に関連づけて
考え、行動
できるようになる

個人 (ミクロ)



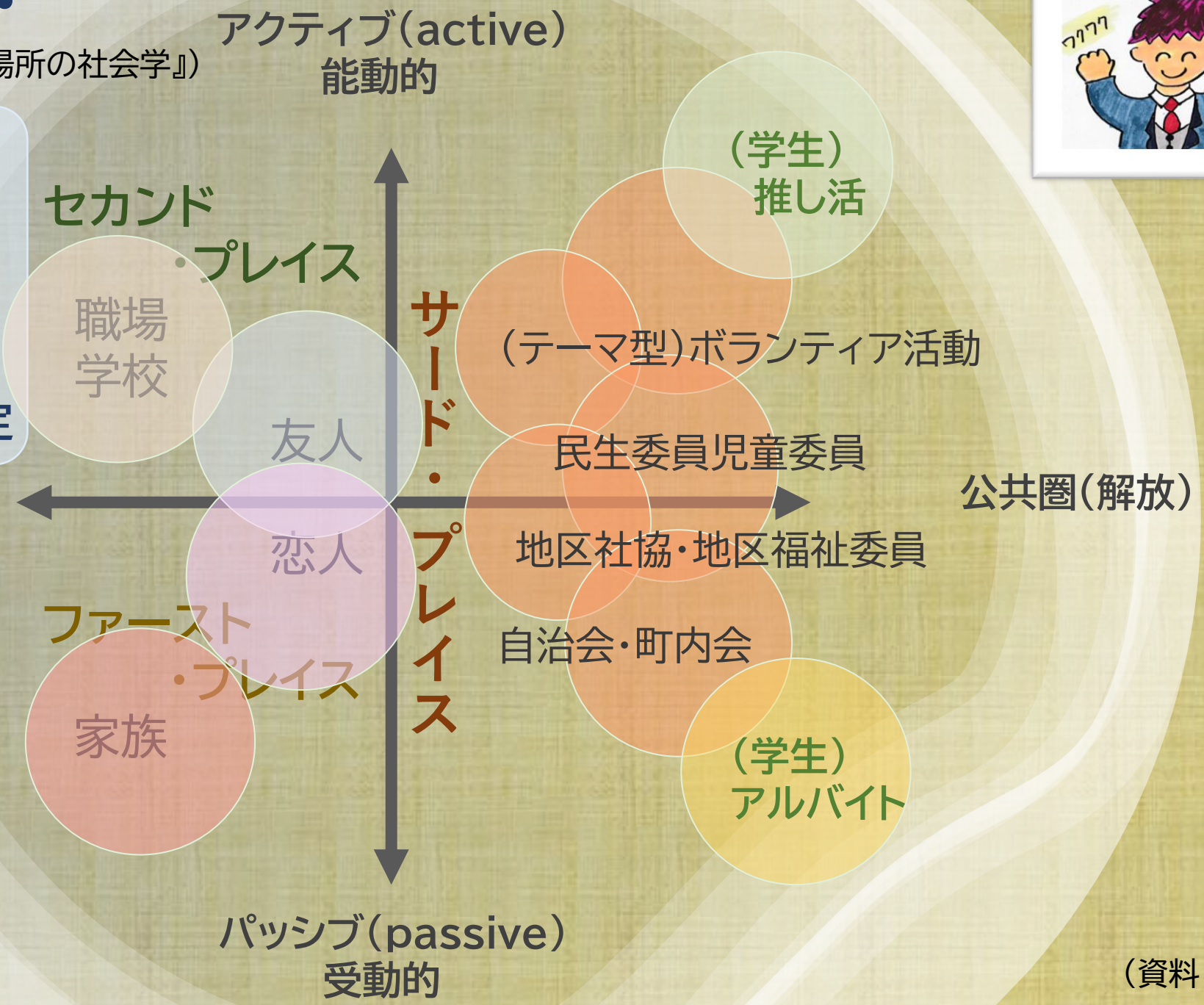
居場所いろいろ...

(阿比留2022『孤独と居場所の社会学』)



物理的な場所
(身の置き場)
×
他者との関係性
(精神的よりどころ)
所属と承認 存在の肯定

親密圏(限定)



ケアとは、ただその人といま一緒に過ごせることを大切に思い、お互いの存在を肯定し合うこと。目や指先の動きや体調の変化など、些細なサインにも気を配り、コミュニケーションを交わし続けること。そして心温まるエピソードを紡いでいくこと…(松端2022)

地位・権力・所有(to have 「もつこと」(E.フロム)への執着と社会的評価軸)のもとであくせく…「学校化」する社会
「ハイパー・メリトクラシー」
(本田由紀)

市場 社会 政治

社会の問題

社会の構造的
矛盾により
生じる問題

社会を
どう変えていく
か

社会変革

コミュニティ・フラクティス

いろいろなコミュニティ

ケア(care)

他者との関係不安定
生きづらさ

他者との関係が安定

コミュニティ

「所属」(身の置き場)

と「承認」(精神的よりどころ)

存在の肯定(to be 「あること」(E.フロム)の価値)のもとで自分らしく他者との関係のなかで豊かに暮らす…

(エーリッヒ・フロム=佐藤哲郎訳
(1976=1977)『生きるということ』
紀伊國屋書店)
本田由紀(2020)『教育は何を評価して
きたのか』岩波新書)

多様なコミュニティを
豊かに創造していくことが
個人が幸せに暮らせる
社会に変えていくために
私たちにできること!!!

(資料:松端)

実存の問題

個人としての
生き方の問題

個人が
どう生きるか

エンパワ
メント

私

「私」を演じる私

私

「私」を選ぶ私

コミュニティ・プラクティスのイメージ

社会

社会の問題
暮らしやすい社会に
どう変えていくか

コミュニティを
拠り所にして
多様な実践を展
開する



(八尾市“つなげえ〜るコンサルジュ”)

本のタイトル(案)
『実存と変革

〜コミュニティ・プラクティスで拓く新たな地平〜』

●拓いていく

●社会へと

●自分を

支え合い・連帯し・行動を起こす

コミュニティ・
プラクティス
施設 社協

集い・交流し・話し合い・学び合い

ケアを担っている

経済的に厳しい

社会の構造により個人やその
世帯の問題として
現れる(問題は社会の
構造に規定されている)

(資料:松端)

不安が強い

自己肯定感低い

孤独

生きづらさ

実存の問題
私がどう生きるか

暮らしにくさ

個人

社会福祉・ソーシャルワークの構造

ミクロ
Social Work

メゾ

マクロ
Social Policy

ウェルビーイング
自己実現

社会・環境

ノーマライゼーション
社会正義

Care

生活上の問題・課題
の緩和・解決

コミュニティ・
プラクティス

より暮らしやすい
社会の実現

生活していく上で困難な状況
におかれた個人や家族・世帯

コミュニティづくり
社会関係の調整

抑圧からの解放
ソーシャルアクション
社会の変革

個人や家族・世帯
エンパワーメントと解放

生きづらさ
実存の問題
個々人がどう生きるか
それをどう支えるか

ソーシャルワーカー
社会福祉士・精神保健福祉士

生きづらさを生み出す
社会の問題
個々人が生きやすい
社会にどのように変えていくか

社会福祉の方法(≡ソーシャルワーク)

ソーシャルワーク(個別支援)

コミュニティワーク

ソーシャルアクション

コミュニティオーガニゼーション(地域支援) (図:松端)

つなげ～るコンシェルジュ



つなげる
よろこび

×

つながる
たのしさ



テキスト

『NHK社会福祉セミナー2023(4月～9月)』

NHK出版

◆松端克文「5月 地域福祉という考え方と実践」

2023年

1回 5月6日 / 第2回 5月 13日 / 第3回 5月20日 / 第4回 5月27日
5月7日 5月14日 5月21日 5月28日

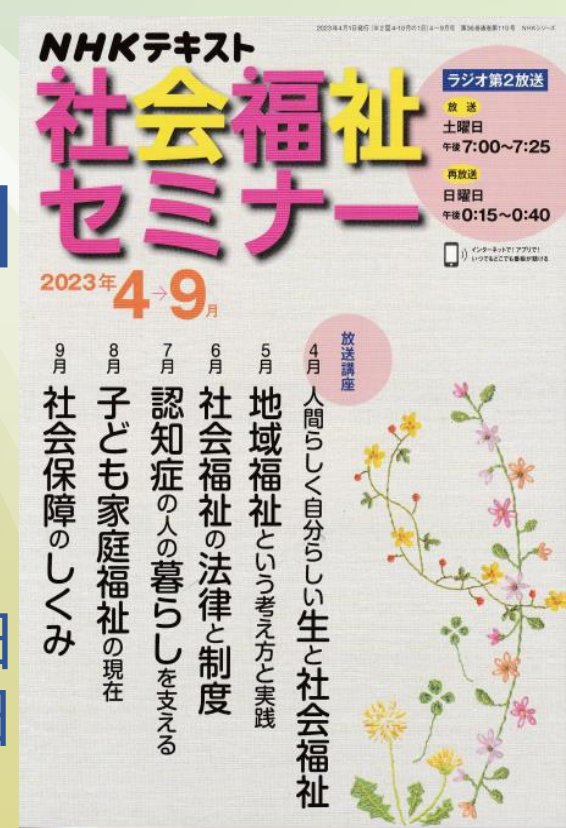
NHKラジオ らじる★らじる

https://www.nhk.or.jp/radio/ondemand/detail.html?p=0143_01

2024年

1回 5月4日 / 第2回 5月 11日 / 第3回 5月18日 / 第4回 5月25日 土 19:00~19:25
5月5日 5月12日 5月19日 5月26日 日 12:15~12:40

にて、「聴き逃し」放送



地域の見方を変えると 福祉実践が変わる

コミュニティ変革の処方箋

松端克文 著

E-MINERVA
福祉ライブラリー

29



私」を基点に捉えることで、身近な私たちの暮らしの中で、ごく自然に地域福祉について考え、実践できる斬新な「視座」を示す地域福祉の“いま”&“リアリティ”を問うことなしに、新たな展開は望めない。

—生活支援・地域づくりに関わるすべての人々の必読の書—

日本ソーシャルワーク教育学校連盟副会長・
同志社大学社会学部教授 上野谷加代子

ミネルヴァ書房

序章 「視座」転換で拓ける地域福祉の新たな見方

第1章 「つながりをつくる」と「くらしをまもる」

—地域福祉の2つの機能

第2章 「生活課題の解決」と「地域のガバナンスの構築」

—システム理論で読み解く地域福祉

第3章 「地域のガバナンスの構築」と地域福祉計画—理想と現実の狭間で

第4章 社会福祉協議会の存在意義—地域福祉を推進できるのか

第5章 主体性とパターンリズム—ボランティア・住民の政策的動員をめぐって

第6章 参画と協働を促すコレクティブ・アプローチ

—リベラリズムかコミュニタリアニズムか

第7章 対話と学び合いで進める「公共」の再構築

—熟議のアゴラへ

終章 地域福祉論の意味論の変遷と“いま”

「コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の配置をめぐって」ほか
8つの論点 掲載

(2018年7月1日発行)